



## ご挨拶

第24回日本母乳哺育学会学術集会  
会長 合阪幸三

この度、第24回日本母乳哺育学会学術集会を開催させて頂くことになりました。伝統ある本学会の学術集会を主催する機会を頂き、大変光栄に存じます。

皆様よくご存じの通り、本学会は、小林 登 東大名誉教授が母乳哺育研究会として立ち上げられたものです。現在理事長を務めておられます、牛島廣治 東大名誉教授、藍野大教授の下に様々な分野の専門家が集い、ディスカッションすることにより、母乳哺育を学問として捉え、研究するという趣旨で活動して参りました。また昨年度より学会の法人化に向けて、理事長を中心に努力を重ねた結果、本年度より日本母乳哺育学会 一般社団法人として新たなスタートを切ることができました。

今回の学会のメインテーマは、「母乳哺育 -我が子を慈しむところ-」とさせていただきます。母乳哺育の重要性、人工栄養と比べて母乳がいかなる点でも優っていること、母乳哺育を介しての母と児の絆の強化など、今までの学会では母乳哺育の有利な点が強調されて参りました。もとより私も、母乳哺育の重要性、有用性については、重々承知しております。ところが、お母様方の中には、如何に努力しても我が子の哺乳に必要なだけの母乳が分泌されない方がおられます。また病気などの合併のためやむなく母乳分泌を中断しなければならない方や、高度先進不妊治療(この中には代理母、卵子提供による妊娠など、現在わが国では認められていない方法で妊娠、出産されている方も含まれます)の恩恵により、ようやく我が子を抱くことができても、母乳分泌が不十分もしくは全くない方など、複雑な現代社会を背景として、一昔前では想定すらできなかった多様な患者様がいらっしゃることも無視できなくなってきました。

そこで今回の学術集会では、母乳哺育をしたくてもできない場合にどのように対処すべきかについて検討することに主眼を置くことといたしました。

第1報よりお知らせしていた、本学術集会のメインゲストの向井亜紀様のご講演は、諸般の事情でやむなくキャンセルとなりましたが、プログラムに掲載されておりますように、様々な分野の第一人者の先生方より、新しい観点から見た母乳哺育について勉強できる学術集会となったと考えております。今回の学術集会が、参加された皆様にとって明日からの臨床、研究に少しでもお役に立てれば幸いです。

なお本年度より、日本母乳哺育学会認定 母乳哺育学術指導員資格制度がスタートする予定です。詳細は理事会、総会の承認を経て公開されますが、資格申請には学術集会や勉強会に参加することが義務付けられております。従って今年の参加証は将来の資格申請に必要となりますので、必ずコピーをお取りになり、保管されますようお願い申し上げます。

また本年度の学術総会では、プログラムを学会雑誌の別冊として、事前に全会員宛にお送りするよういたしました。この方法により本プログラム集は、学会誌の別冊扱いとなりますので、皆様からご寄稿戴いた貴重な抄録が学会終了後も散逸することなく、学会誌の一部として記録、保存されることとなります。会員の皆様は、学術集会に参加される際には、本プログラム集をお忘れなきよう、必ずご持参下さい。

会場は東京駅に隣接する、東京ステーションコンファランス(サピアタワー5階)といたしました。正に東京駅の真上で、交通の便としてはこれ以上ないくらい便利なところです。皆様にはお忙しいことと存じますが、是非ともよろしくご参加いただけますよう、ご案内申し上げます。